

たくさんさんの思いを文章に込めました



読書感想文コンクール で最優秀賞と優秀賞

松村 真穂さん 10歳[㊦]
夏也さん 12歳[㊦]
鼻毛石町

全国青少年読書感想文コンクールで、妹の真穂さんが小学校中学年の部自由読書の最優秀賞、姉の夏也さんが小学校高学年の部自由読書の優秀賞1位に選ばれた。2人の作品は県代表として全国審査に送られる。「最優秀賞をとれて、とてもうれしかったです」(真穂さん)「亡くなっただひいじいちゃんといひいばあちゃんも喜んでくれると思います」(夏也さん)

真穂さんが読んだのは、学校などで話をしたくても話せない、場面かん黙の子どもたちについて書かれた本「なっちゃんの声」。自分と同じ症状のある主人公に話しかけるように、自分の経験と周囲への感謝の気持ちをつづっている。「話をしたくても話せないことに悩んでいる人がいることを、たくさんの人に理解して

もらえたらうれしいです」(真穂さん)。

夏也さんは命の大切さについて書かれた「いのちの時間」を読んだ。大好きなひいおじいさんを亡くし落ちこんでいた時に、お母さんから薦められた1冊。「この本を読んでマイナスだった気持ちをプラスにできました。大切な人を亡くして落ち込んでいる人にも、そうやってほしいという思いを込めました」(夏也さん)

本を読むことのほかに、歌を歌うことも好きな2人。在学する宮城小の合唱団にも所属し練習に励んでいる。

2人は将来「看護師さん」(夏也さん)「助産師さん」(真穂さん)になりたいと話してくれた。人の痛みの分かる2人ならば、きっと優しい看護師と助産師になってくれるだろう。

クローズアップ



エネルギーの大切さ考える

総合福祉会館で12月10日、環境問題講演会を開催。元スキーノルディック複合選手の荻原次晴さんが「次に晴ればそれでいい」と題して講演しました。競技を通じて訪れた、ヨーロッパの環境対策などを紹介。参加者と一緒にエネルギーの大切さを考えました。



前橋の味の試食と情報交換

12月11日、商工会議所で冬の赤城の恵フェスタを開催しました。赤城の恵認証制度が発足して1年を迎えたことを機に開催したこの催しに、農畜産物の生産者や公募の市民など約300人が参加。本市産食材を使用した料理の試飲・試食に会話が弾みました。



前橋

ウォーカ



桂萱地区

自然豊かな「剣聖」生誕の地

今回は、赤城南面の豊かな自然、豊富な文化財に恵まれた桂萱地区を歩いてみました。出発は石関公園。北側が天然芝の多目的広場、南側は滑り台やブランコなどの遊具が設置されているこの公園は、子どもたちが思い切り体を動かせる絶好の場です。

桃ノ木川のゆったりとした流れを眺めながら堤防を上流に向かいます。上毛電鉄踏み切り手前でいったん川から離れ、県道前橋・大間々・桐生線を通り、再び



石関公園

桂萱地区には、この他にも古墳など、貴重な文化財が多く残されています。赤城山の懐に抱かれたこの地の歴史と文化に触れてみてはいかがでしょうか。

堤防へ。しばらく進むと今回の目的地である上泉城跡に到着。ここはかつて赤城南麓を領有していた大胡氏の一族である上泉氏が居城していました。「剣聖」と呼ばれ、新陰流の祖といわれる上泉伊勢守信綱は、この城で生まれたと伝えられています。本丸跡付近には県史跡に指定されている上泉郷蔵があります。郷蔵とは江戸時代に年貢米の徴収および一時的な保管のために造られた土蔵をいいます。上泉郷蔵は瓦葺荒壁塗りで、寛政8年（1796年）に建てられました。



上泉郷蔵



そば打ちにチャレンジ

地産地消センターで12月15日、前橋産そば打ち体験を開催しました。講師がお手本を披露した後に実習がスタート。会場中がそばのよい香りに包まれる中、参加者たちは一生懸命生地を練り上げたり、慎重に延ばしたりしながらそば作りを楽しみました。



前橋工科大の専門講座で学ぶ

12月14日、前橋工科大で専門講座を開催。「光で捕まえ、運び、並べる」をテーマに東京農工大大学院教授・岩井俊昭さんが講義を行いました。参加した市民と学生は、ミクロの世界と光技術の奥深さに驚きながら、熱心に講義に耳を傾けていました。